

## 〈結果の概要〉

### I 15歳以上人口の就業状態

#### 第1 有業者及び雇用者の就業状態

##### 1 有業者と無業者の状況

###### (1) 有業者は194万7千人、平成19年に比べ13万4千人の減少

平成24年10月1日現在の15歳以上人口（322万8千人）をふだんの就業状態別にみると、有業者は194万7千人で、前回（平成19年。以下同じ）と比べ13万4千人の減少（-6.4%）となっている。

有業者を男女別にみると、男性が110万8千人、女性が83万9千人となっている。

前回と比べると、男性は8万3千人の減少（-7.0%）、女性は5万1千人の減少（-5.7%）となっている。（表1）

###### (2) 無業者は男性が6万人、女性が3万1千人の増加

無業者は128万1千人で、前回と比べ9万人（7.6%）の増加となっている。

無業者を男女別にみると、男性が46万9千人、女性が81万2千人となっている。

前回と比べると、男性は6万人（14.5%）増加、女性は3万1千人（3.9%）増加となっている。（表1）

表1 就業状態別15歳以上人口—平成19年、24年

（人、%）

| 区分      |    | 平成24年     | 平成19年     | 増減       |      |
|---------|----|-----------|-----------|----------|------|
|         |    |           |           | 増減人数     | 増減率  |
| 15歳以上人口 | 総数 | 3,228,200 | 3,271,900 | -43,700  | -1.3 |
|         | 男  | 1,576,700 | 1,600,100 | -23,400  | -1.5 |
|         | 女  | 1,651,500 | 1,671,800 | -20,300  | -1.2 |
| 有業者     | 総数 | 1,947,100 | 2,081,000 | -133,900 | -6.4 |
|         | 男  | 1,107,800 | 1,190,700 | -82,900  | -7.0 |
|         | 女  | 839,400   | 890,300   | -50,900  | -5.7 |
| 無業者     | 総数 | 1,281,000 | 1,190,900 | 90,100   | 7.6  |
|         | 男  | 468,900   | 409,400   | 59,500   | 14.5 |
|         | 女  | 812,100   | 781,500   | 30,600   | 3.9  |

##### 2 有業率

###### (1) 有業率は60.3%、全国第4位

15歳以上人口に占める有業者の割合（有業率）は60.3%で、前回と比べ3.3ポイント低下している。男女別にみると、男性は70.3%、女性は50.8%で、前回と比べ男性は4.1ポイント、女性は2.5ポイントそれぞれ低下している。

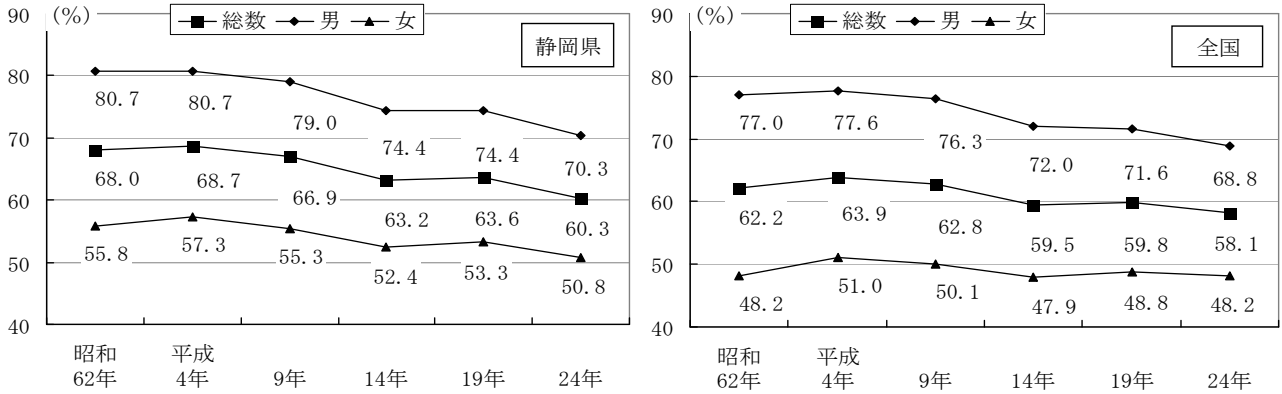
なお、都道府県別の有業率を高い順に比べると、本県は全国第4位で、男女別では男女ともに第7位となっている。（表2、図1）

表2 有業率—平成19年、24年

（%、ポイント）

| 区分 |    | 平成24年 | 平成19年 | 増減   | 都道府県別順位 |
|----|----|-------|-------|------|---------|
| 本県 | 総数 | 60.3  | 63.6  | -3.3 | 4位      |
|    | 男  | 70.3  | 74.4  | -4.1 | 7位      |
|    | 女  | 50.8  | 53.3  | -2.5 | 7位      |
| 全国 | 総数 | 58.1  | 59.8  | -1.7 | /       |
|    | 男  | 68.8  | 71.6  | -2.8 |         |
|    | 女  | 48.2  | 48.8  | -0.6 |         |

図1 男女別有業率の推移－昭和62年～平成24年



(2) 有業率は男性のほぼ全ての年齢階級と女性の25～59歳及び75歳以上で低下

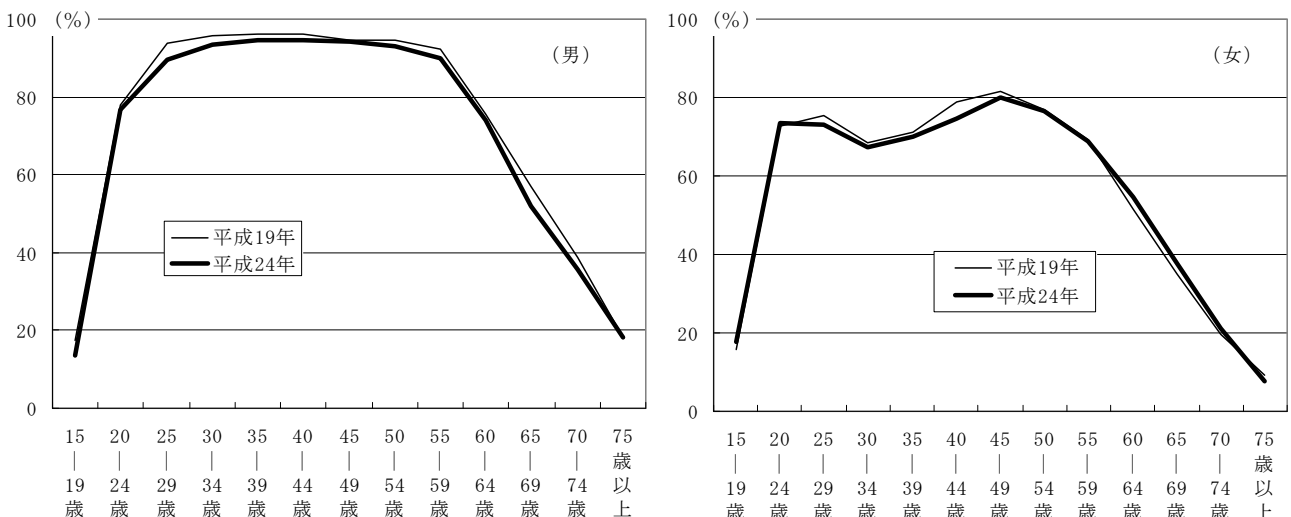
男女別の有業率を年齢階級別に前回と比べると、男性は75歳以上で0.1ポイント上昇したほかは全ての年齢階級で低下し、女性は15歳から24歳と60歳から74歳で0.8～3.2ポイント上昇しているが、25歳から59歳と75歳以上では低下している。(表3、図2)

表3 男女、年齢階級別有業率－平成19年、24年

(%、ポイント)

| 年齢階級   | 平成24年 |      |      | 平成19年 |      |      | 増減   |      |      |
|--------|-------|------|------|-------|------|------|------|------|------|
|        | 総数    | 男    | 女    | 総数    | 男    | 女    | 総数   | 男    | 女    |
| 総数     | 60.3  | 70.3 | 50.8 | 63.6  | 74.4 | 53.3 | -3.3 | -4.1 | -2.5 |
| 15～19歳 | 15.5  | 13.6 | 17.6 | 16.8  | 17.6 | 15.8 | -1.3 | -4.0 | 1.8  |
| 20～24歳 | 75.2  | 76.7 | 73.5 | 75.4  | 78.1 | 72.7 | -0.2 | -1.4 | 0.8  |
| 25～29歳 | 81.6  | 89.6 | 72.9 | 84.8  | 93.9 | 75.2 | -3.2 | -4.3 | -2.3 |
| 30～34歳 | 80.7  | 93.3 | 67.3 | 82.5  | 95.8 | 68.3 | -1.8 | -2.5 | -1.0 |
| 35～39歳 | 82.7  | 94.4 | 70.1 | 84.0  | 96.3 | 71.0 | -1.3 | -1.9 | -0.9 |
| 40～44歳 | 84.8  | 94.4 | 74.7 | 87.7  | 96.2 | 78.8 | -2.9 | -1.8 | -4.1 |
| 45～49歳 | 87.4  | 94.2 | 80.1 | 88.1  | 94.4 | 81.7 | -0.7 | -0.2 | -1.6 |
| 50～54歳 | 85.0  | 93.2 | 76.7 | 86.0  | 94.6 | 77.1 | -1.0 | -1.4 | -0.4 |
| 55～59歳 | 79.4  | 89.9 | 68.9 | 80.7  | 92.2 | 69.3 | -1.3 | -2.3 | -0.4 |
| 60～64歳 | 64.3  | 74.1 | 54.6 | 63.3  | 75.5 | 51.4 | 1.0  | -1.4 | 3.2  |
| 65～69歳 | 44.7  | 52.0 | 37.8 | 45.6  | 57.0 | 34.9 | -0.9 | -5.0 | 2.9  |
| 70～74歳 | 28.0  | 35.8 | 21.0 | 28.5  | 38.8 | 19.6 | -0.5 | -3.0 | 1.4  |
| 75歳以上  | 11.8  | 18.3 | 7.7  | 12.7  | 18.2 | 9.3  | -0.9 | 0.1  | -1.6 |

図2 男女、年齢階級別有業率－平成19年、24年



### 3 有業者の従業上の地位

#### (1) 「雇用者」「自営業主」「家族従業者」の全てが減少

有業者を従業上の地位別にみると、「雇用者」は171万5千人で、前回と比べ9万9千人の減少(-5.4%)となり、「自営業主」は19万5千人で、前回と比べ2万3千人の減少(-10.4%)、「家族従業者」は3万6千人で、前回と比べ1万3千人の減少(-27.2%)となっている。(表4、図3)

図3 従業上の地位別有業者数の推移—昭和62年～平成24年

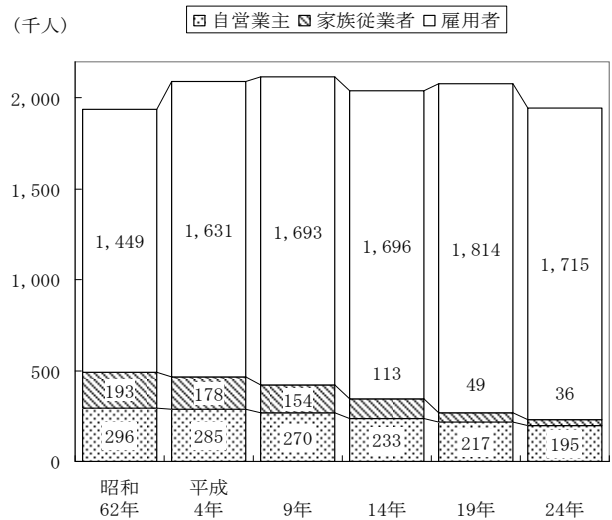


表4 従業上の地位別有業者数—平成19年、24年 (千人、%)

| 区分    | 平成24年   | 平成19年   | 増減     |       |
|-------|---------|---------|--------|-------|
|       |         |         | 人数     | 率     |
| 有業者   | 1,947.1 | 2,081.0 | -133.9 | -6.4  |
| 自営業主  | 194.8   | 217.3   | -22.5  | -10.4 |
| 家族従業者 | 35.6    | 48.9    | -13.3  | -27.2 |
| 雇用者   | 1,714.8 | 1,813.6 | -98.8  | -5.4  |

#### (2) 高齢化が進む「自営業主」と「家族従業者」

「自営業主」と「家族従業者」について、年齢階級別の割合をみると、いずれも65歳以上がそれぞれ40.6%、53.1%と最も多くなっている。

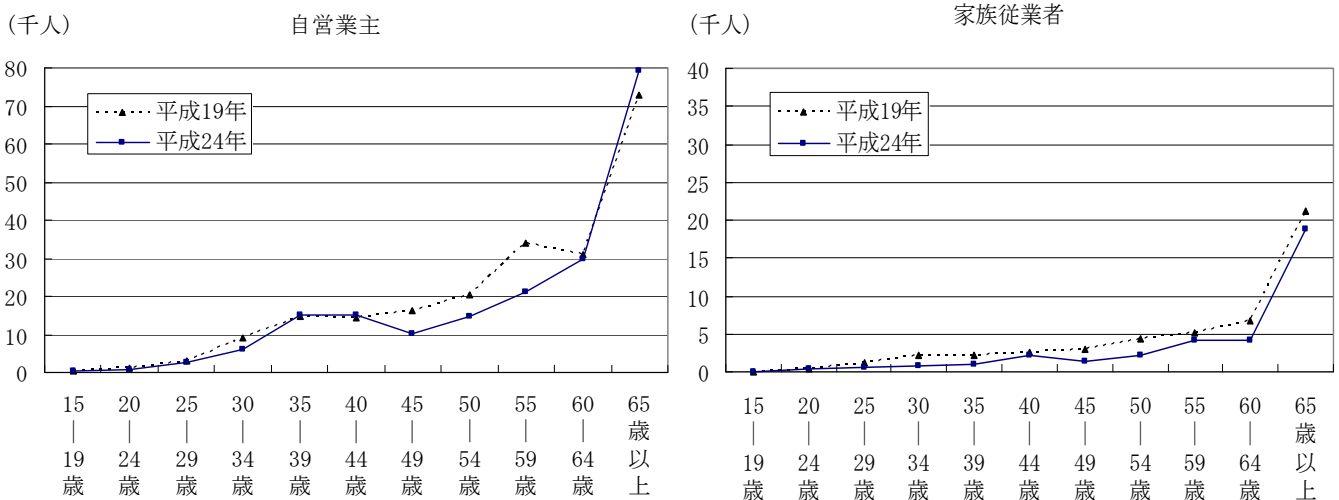
また、年齢階級別の有業者数を前回と比べると、「自営業主」は45歳から59歳で大きく減少し、「家族従業者」はすべての年齢階級で減少している。(表5、図4)

表5 年齢階級別自営業主、家族従業者—平成24年

(人、%)

| 区分    |     | 総数      | 15～19歳 | 20～24歳 | 25～29歳 | 30～34歳 | 35～39歳 | 40～44歳 | 45～49歳 | 50～54歳 | 55～59歳 | 60～64歳 | 65歳以上  |
|-------|-----|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 自営業主  | 人数  | 194,800 | 500    | 600    | 2,700  | 5,900  | 15,000 | 15,100 | 10,200 | 14,800 | 21,100 | 29,800 | 79,100 |
|       | 構成比 | 100.0   | 0.3    | 0.3    | 1.4    | 3.0    | 7.7    | 7.8    | 5.2    | 7.6    | 10.8   | 15.3   | 40.6   |
| 家族従業者 | 人数  | 35,600  | -      | 300    | 600    | 800    | 900    | 2,100  | 1,400  | 2,100  | 4,200  | 4,200  | 18,900 |
|       | 構成比 | 100.0   | -      | 0.8    | 1.7    | 2.2    | 2.5    | 5.9    | 3.9    | 5.9    | 11.8   | 11.8   | 53.1   |

図4 年齢階級別自営業主、家族従業者—平成19年、24年



#### 4 雇用者の雇用形態

##### (1) 「正規の職員・従業員」は、男性雇用者の73.6%、女性雇用者の39.9%

雇用者の雇用形態について男女別に割合をみると、男性は「正規の職員・従業員」が男性雇用者の73.6%を占めているが、女性は女性雇用者の39.9%と4割を割り込み、「パート」や「アルバイト」など、非正規就業者（\*）が5割以上を占めている。

これを年齢階級別に割合をみると、男性は15歳から24歳で「アルバイト」が、55歳から64歳で「契約社員・嘱託」が、65歳以上で「パート」の割合がそれぞれ最も大きくなっている。女性は35歳から44歳以降の年齢階層とその前の年齢階層で正規就業者と非正規就業者の割合が逆転している。（表6、図5）

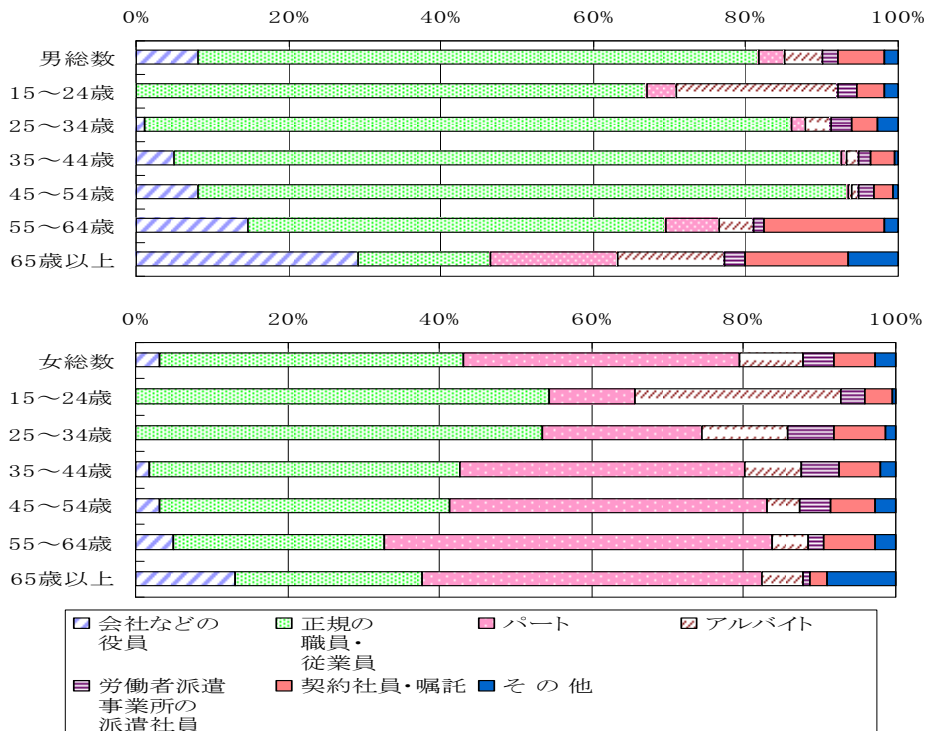
表6 男女、年齢階級、雇用形態別雇用者の割合—平成24年

(%)

| 区 分 |        | 雇用者<br>総 数 | 会社など<br>の役員 | 正規の職<br>員・従業員 | パート  | アルバイ<br>ト | 労働者派遣<br>事業所の<br>派遣社員 | 契約社<br>員・嘱託 | その他 |
|-----|--------|------------|-------------|---------------|------|-----------|-----------------------|-------------|-----|
| 男   | 総 数    | 100.0      | 8.1         | 73.6          | 3.4  | 4.8       | 2.0                   | 6.3         | 1.7 |
|     | 15～24歳 | 100.0      | 0.1         | 66.8          | 3.9  | 21.1      | 2.5                   | 3.6         | 1.9 |
|     | 25～34歳 | 100.0      | 1.2         | 84.9          | 1.6  | 3.6       | 2.7                   | 3.4         | 2.6 |
|     | 35～44歳 | 100.0      | 4.9         | 87.6          | 0.6  | 1.6       | 1.7                   | 3.0         | 0.5 |
|     | 45～54歳 | 100.0      | 8.1         | 85.3          | 0.5  | 0.9       | 1.9                   | 2.6         | 0.6 |
|     | 55～64歳 | 100.0      | 14.7        | 55.0          | 6.8  | 4.7       | 1.3                   | 15.9        | 1.7 |
|     | 65歳以上  | 100.0      | 29.0        | 17.3          | 16.8 | 14.0      | 2.7                   | 13.5        | 6.5 |
| 女   | 総 数    | 100.0      | 3.1         | 39.9          | 36.4 | 8.4       | 3.9                   | 5.6         | 2.6 |
|     | 15～24歳 | 100.0      | 0.0         | 54.5          | 11.2 | 27.0      | 3.2                   | 3.7         | 0.4 |
|     | 25～34歳 | 100.0      | 0.1         | 53.2          | 21.0 | 11.2      | 6.2                   | 6.8         | 1.3 |
|     | 35～44歳 | 100.0      | 1.7         | 41.1          | 37.5 | 7.3       | 5.0                   | 5.5         | 2.0 |
|     | 45～54歳 | 100.0      | 3.1         | 38.3          | 41.8 | 4.4       | 4.0                   | 5.9         | 2.7 |
|     | 55～64歳 | 100.0      | 5.0         | 27.7          | 51.2 | 4.6       | 2.1                   | 6.8         | 2.7 |
|     | 65歳以上  | 100.0      | 13.0        | 24.6          | 44.7 | 5.6       | 0.9                   | 2.2         | 9.0 |

\* 「非正規就業者」は、「正規の職員・従業員」以外の6区分

図5 男女、年齢階級、雇用形態別雇用者の割合—平成24年



## (2) 多くの年齢階級で減少した「労働者派遣事業所の派遣社員」

雇用者の主な雇用形態について、男女、年齢階級別に前回と比べると、「正規の職員・従業員」は男性が39歳以下、55歳から59歳及び65歳以上で、女性が20歳から34歳と50歳から59歳の年齢階級でそれぞれ減少している。

「パート・アルバイト」は、特に女性の30歳から39歳及び50歳から59歳で減少して60歳以上の年齢階級で増加し、「労働者派遣事業所の派遣社員」は、男女とも多くの年齢階級で減少している。(図6)

図6-1 「正規の職員・従業員」の年齢階級別雇用者数－平成19年、24年

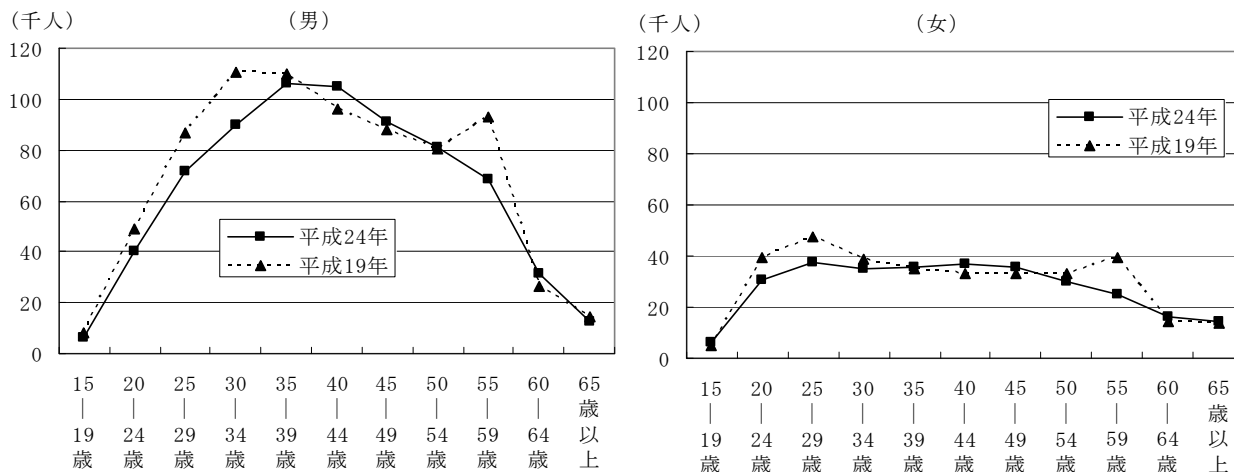


図6-2 「パート・アルバイト」の年齢階級別雇用者数－平成19年、24年

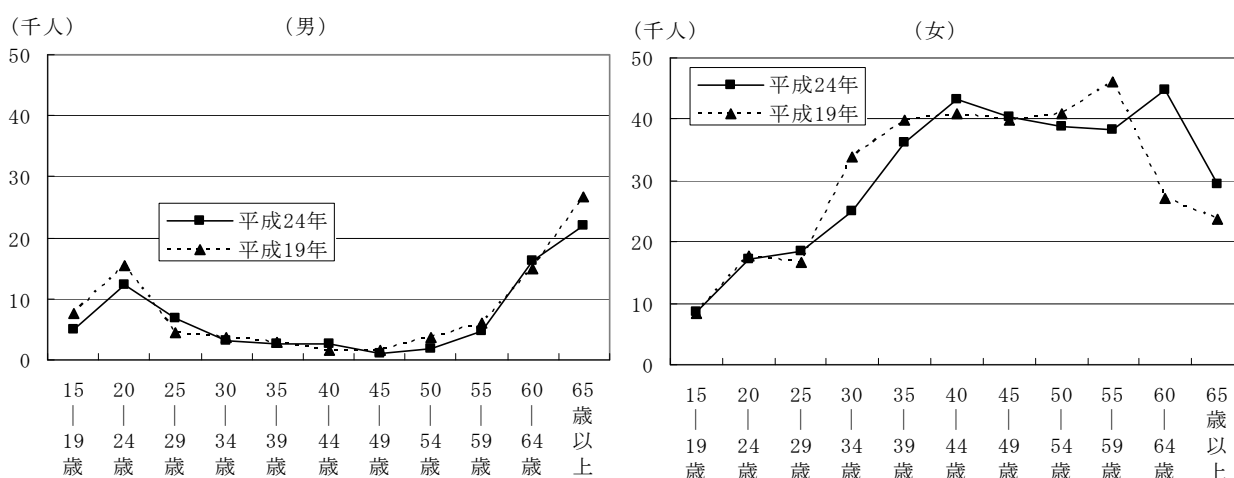
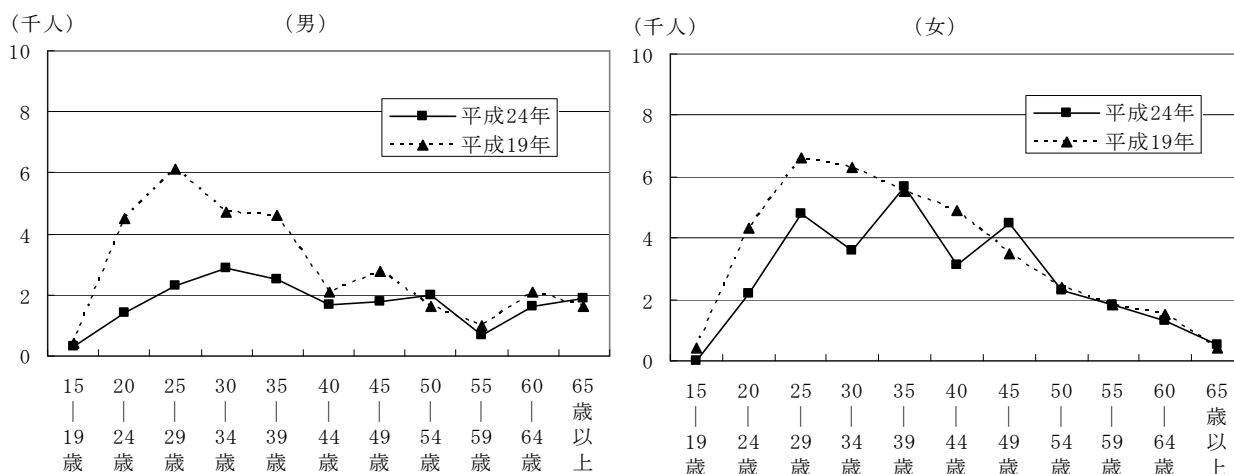


図6-3 「労働者派遣事務所の派遣社員」の年齢階級別雇用者数－平成19年、24年



## 第2 産業大分類別、職業大分類別の就業状態

### 1 産業大分類別の状況

#### (1) 男性は「製造業」、女性は「卸売業、小売業」が最も多い

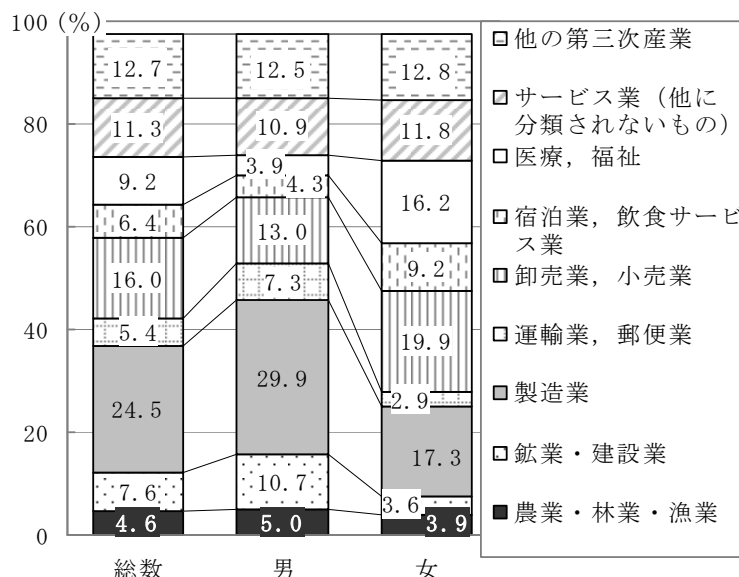
有業者を産業大分類別にみると、「製造業」が47万7千人（有業者に占める割合24.5%）と最も多く、次いで「卸売業、小売業」が31万1千人（同16.0%）、「他の第三次産業（電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、金融・保険業、不動産業、教育、学習支援業、複合サービス業及び公務）」が24万7千人（同12.7%）などとなっている。

男女別にみると、男性は「製造業」が33万1千人（男性有業者に占める割合29.9%）と最も多く、次いで、「卸売業、小売業」が14万4千人（同13.0%）、「他の第三次産業」が13万9千人（同12.5%）などとなっている。

また、女性は「卸売業、小売業」が16万7千人（女性有業者に占める割合19.9%）と最も多く、次いで「製造業」が14万5千人（同17.3%）、「医療、福祉」が13万6千人（同16.2%）などとなっている。

（図7）

図7 産業大分類別有業者の割合－平成24年

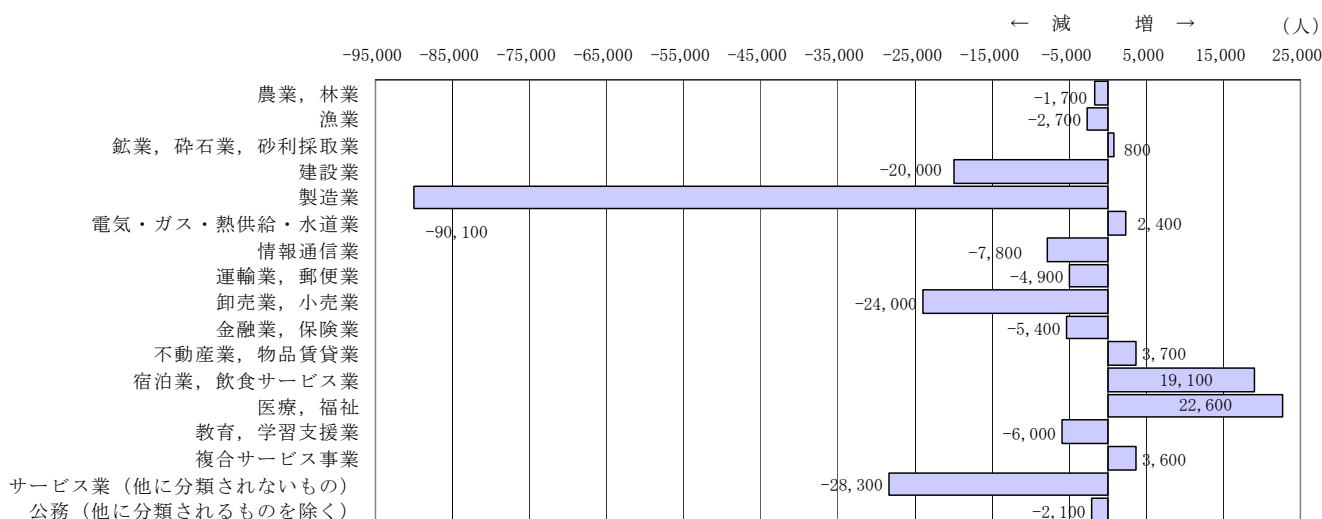


#### (2) 「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」などが増加、「製造業」が大きく減少

有業者について産業大分類別に前回と比べると、「医療、福祉」（2万3千人増）、「宿泊業、飲食サービス業」（1万9千人増）などが増加したのに対し、「製造業」（9万人減）、「サービス業（他に分類されないもの）」（2万8千人減）、「卸売業、小売業」（2万4千人減）などが減少している。

（図8）

図8 産業大分類別有業者数の増減－平成19年、24年



## 2 職業大分類別の状況

### (1) 男性有業者の25.5%が「生産工程従事者」

有業者について職業大分類別の割合をみると、「生産工程従事者」が20.5%と最も高く、次いで「事務従事者」が17.1%、「専門的・技術的職業従事者」が13.5%、「販売従事者」が12.0%などとなっている。

男女別に割合をみると、男性は「生産工程従事者」が25.5%と最も高く、次いで「専門的・技術的職業従事者」が13.5%、「事務従事者」「販売従事者」がともに11.2%などとなっている。

女性は「事務従事者」が24.8%と最も高く、次いで「サービス職業従事者」が18.6%、「生産工程従事者」が13.9%などとなっている。

有業者に占める職業大分類別女性有業者の割合をみると、「サービス職業従事者」で7割近く、「事務従事者」で6割以上を占めているが、「建設・採掘従事者」(2.4%)、「輸送・機会運転従事者」(6.0%)、「保安職業従事者」(8.1%)、「管理的職業従事者」(8.3%)では1割未満となっている。(表7)

表7 男女、職業大分類別有業者数及び割合—平成24年

| 区 分          | 総数        |       | 男         |       | 女       |       | 女性の割合<br>(B/A) |
|--------------|-----------|-------|-----------|-------|---------|-------|----------------|
|              | 人数(A)     | 割合    | 人数        | 割合    | 人数(B)   | 割合    |                |
| 総数           | 1,947,000 | 100.0 | 1,107,800 | 100.0 | 839,400 | 100.0 | 43.1           |
| 管理的職業従事者     | 41,200    | 2.1   | 37,800    | 3.4   | 3,400   | 0.4   | 8.3            |
| 専門的・技術的職業従事者 | 262,100   | 13.5  | 149,100   | 13.5  | 113,000 | 13.5  | 43.1           |
| 事務従事者        | 333,000   | 17.1  | 124,400   | 11.2  | 208,500 | 24.8  | 62.6           |
| 販売従事者        | 234,300   | 12.0  | 124,100   | 11.2  | 110,200 | 13.1  | 47.0           |
| サービス職業従事者    | 227,900   | 11.7  | 71,700    | 6.5   | 156,200 | 18.6  | 68.5           |
| 保安職業従事者      | 25,800    | 1.3   | 23,700    | 2.1   | 2,100   | 0.3   | 8.1            |
| 農林漁業従事者      | 87,000    | 4.5   | 55,900    | 5.0   | 31,100  | 3.7   | 35.7           |
| 生産工程従事者      | 399,400   | 20.5  | 282,700   | 25.5  | 116,700 | 13.9  | 29.2           |
| 輸送・機械運転従事者   | 72,100    | 3.7   | 67,900    | 6.1   | 4,300   | 0.5   | 6.0            |
| 建設・採掘従事者     | 86,400    | 4.4   | 84,300    | 7.6   | 2,100   | 0.3   | 2.4            |
| 運搬・清掃・包装等従事者 | 135,900   | 7.0   | 60,000    | 5.4   | 75,900  | 9.0   | 55.8           |
| 分類不能の職業      | 42,200    | 2.2   | 26,300    | 2.4   | 15,900  | 1.9   | 37.7           |

### (2) 「正規の職員・従業員」が4割以下の「サービス職業従事者」

職業大分類別の有業者について従業上の地位・主な雇用形態をみると、「自営業主」は「農林漁業従事者」で最も高くなっている。

「正規の職員・従業員」が占める割合は、「輸送・機械運転従事者」(72.5%)で最も高く、次いで「保安職業従事者」(71.3%)、「専門的・技術的職業従事者」(66.8%)などとなっているが、「サービス職業従事者」(33.0%)では4割以下となっている。(表8)

表8 職業大分類、従業上の地位・主な雇用形態別有業者の割合—平成24年

(%)

| 職 業          | 有業者<br>総 数 | 自 営<br>業 主 | 家 族<br>従 業 者 | 雇 用 者 | うち                  | うち                      | うち    | うち           | うち                                 | うち         |
|--------------|------------|------------|--------------|-------|---------------------|-------------------------|-------|--------------|------------------------------------|------------|
|              |            |            |              |       | 会 社 な<br>ど の 役<br>員 | 正 規 の<br>職 員 ・<br>従 業 員 | パ ー ト | ア ル バ<br>イ ト | 労 働 者 派<br>遣 事 業<br>所 の 派<br>遣 社 員 | 契 約<br>社 員 |
| 総数           | 100.0      | 10.0       | 1.8          | 88.1  | 5.2                 | 51.7                    | 15.9  | 5.6          | 2.5                                | 3.8        |
| 管理的職業従事者     | 100.0      | 4.1        | -            | 95.9  | 79.6                | 14.6                    | -     | -            | -                                  | -          |
| 専門的・技術的職業従事者 | 100.0      | 11.0       | 0.2          | 88.8  | 4.0                 | 66.8                    | 8.4   | 1.6          | 0.8                                | 4.0        |
| 事務従事者        | 100.0      | 0.2        | 1.4          | 98.4  | 5.0                 | 62.9                    | 15.8  | 3.0          | 3.6                                | 4.4        |
| 販売従事者        | 100.0      | 9.5        | 1.9          | 88.6  | 5.8                 | 46.7                    | 19.1  | 12.0         | 0.6                                | 2.3        |
| サービス職業従事者    | 100.0      | 12.3       | 2.3          | 85.4  | 2.3                 | 33.0                    | 30.1  | 12.6         | 0.7                                | 3.5        |
| 保安職業従事者      | 100.0      | -          | -            | 100.0 | -                   | 71.3                    | 6.6   | 10.5         | -                                  | 9.3        |
| 農林漁業従事者      | 100.0      | 46.1       | 18.3         | 35.6  | 1.5                 | 18.7                    | 4.6   | 1.8          | -                                  | 0.8        |
| 生産工程従事者      | 100.0      | 8.4        | 0.6          | 91.1  | 2.7                 | 59.9                    | 12.9  | 2.9          | 5.3                                | 4.9        |
| 輸送・機械運転従事者   | 100.0      | 4.2        | -            | 95.8  | 1.8                 | 72.5                    | 5.3   | 6.9          | 0.7                                | 6.2        |
| 建設・採掘従事者     | 100.0      | 28.4       | 1.4          | 70.3  | 7.5                 | 52.0                    | 1.0   | 3.0          | -                                  | 0.6        |
| 運搬・清掃・包装等従事者 | 100.0      | 6.7        | 1.0          | 92.3  | 1.9                 | 30.5                    | 39.0  | 8.5          | 4.7                                | 4.6        |
| 分類不能の職業      | 100.0      | 7.8        | 0.7          | 87.4  | 0.5                 | 43.6                    | 15.2  | 9.7          | 9.0                                | 4.5        |



### 第3 年間就業日数・週間就業時間

#### 1 年間就業日数

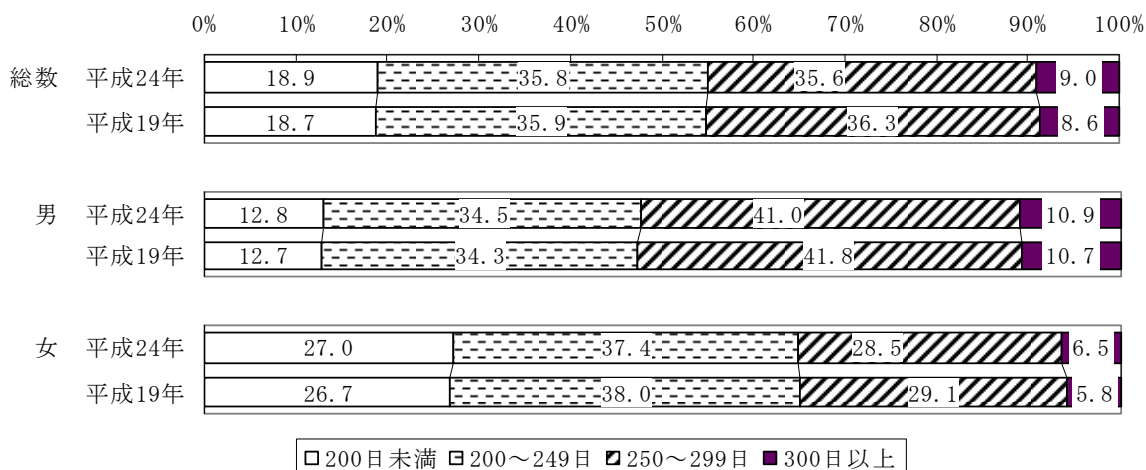
##### (1) 男性有業者の半数以上は年間就業日数 250 日以上

有業者について年間就業日数別の割合をみると、「200日未満」が18.9%、「200～249日」が35.8%、「250～299日」が35.6%、「300日以上」が9.0%となっている。

前回と比べると、「200日未満」が0.2ポイント、「300日以上」が0.4ポイント上昇し、「200～249日」が0.1ポイント、「250～299日」が0.7ポイント低下している。

男女別にみると、男性の51.9%、女性の35.0%が250日以上となっている。 (図9)

図9 年間就業日数別有業者の割合—平成19、24年



#### 2 週間就業時間

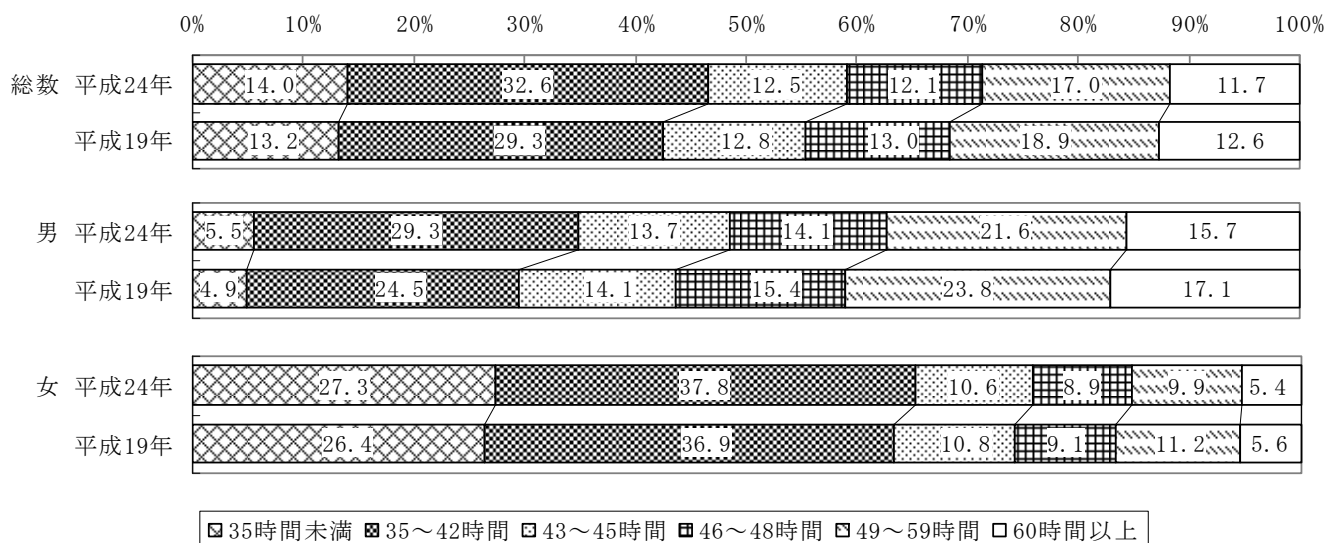
##### (1) 男女とも 42 時間未満の短時間就業者の割合が上昇

年間就業日数が200日以上の有業者について、週間就業時間階級別の割合をみると「35～42時間」が最も高く32.6%を占めている。

男女別に前回と比べると、男性は「35～42時間」の割合が4.8ポイント上昇し、女性では「35～42時間」が0.9ポイント、「35時間未満」が0.9ポイントそれぞれ上昇している。

(図10)

図10 男女、週間就業時間階級別有業者の割合—平成19年、24年



## 第4 就業希望の状況

### 1 有業者の就業希望意識

#### (1) 継続就業希望者は80.6%、前回より0.4ポイント上昇

有業者について就業希望意識別の割合をみると、「継続就業希望者」が80.6%と全体の8割を占めている。

前回と比べると、「継続就業希望者」は、実数では10万人減少しているが、割合では0.4ポイント上昇し、「追加就業希望者」及び「就業休止希望者」は実数・割合ともに増加・上昇している。一方、「転職希望者」は実数・割合ともに減少・低下している。（表9）

表9 就業希望別有業者数及び割合－平成19年、24年

(人、%)

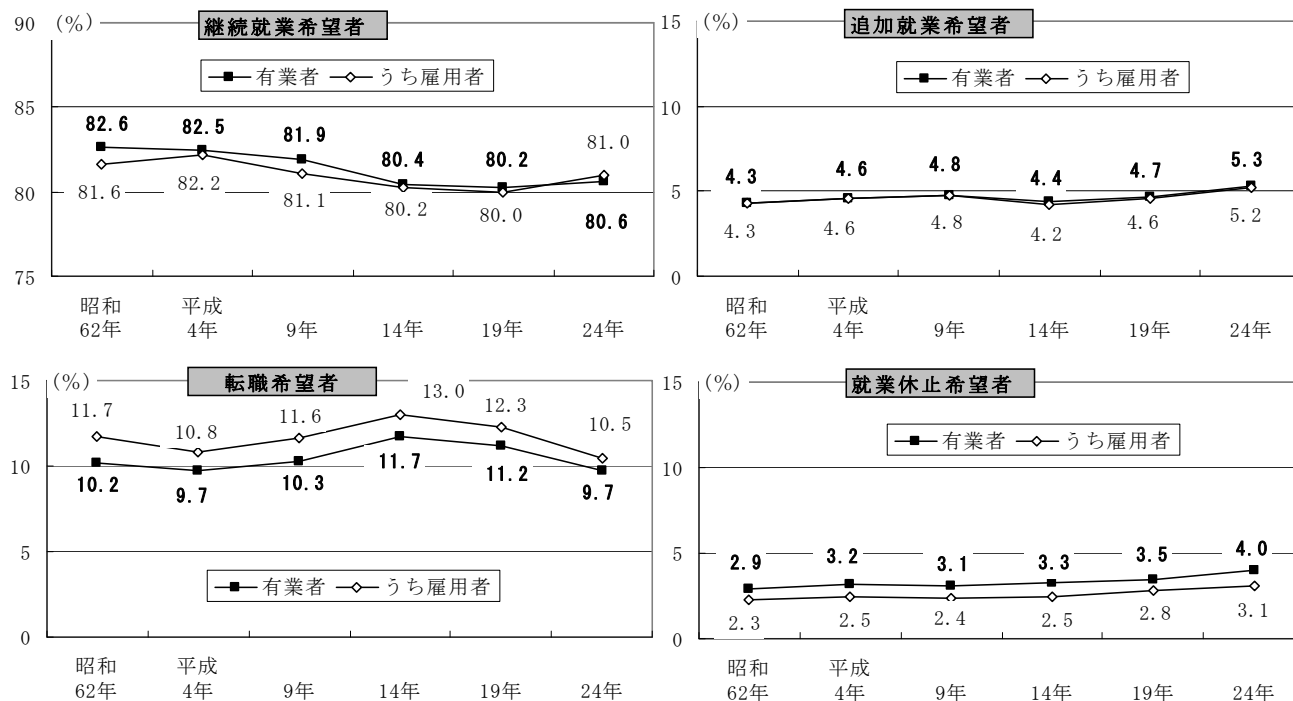
| 区 分     | 実 数       |           |          | 割 合   |       |      |
|---------|-----------|-----------|----------|-------|-------|------|
|         | 平成24年     | 平成19年     | 増減       | 平成24年 | 平成19年 | 増減   |
| 有業者総数   | 1,947,100 | 2,081,000 | -133,900 | 100.0 | 100.0 | —    |
| 継続就業希望者 | 1,569,800 | 1,669,700 | -99,900  | 80.6  | 80.2  | 0.4  |
| 追加就業希望者 | 103,700   | 97,500    | 6,200    | 5.3   | 4.7   | 0.6  |
| 転職希望者   | 188,500   | 233,900   | -45,400  | 9.7   | 11.2  | -1.5 |
| 就業休止希望者 | 78,700    | 72,400    | 6,300    | 4.0   | 3.5   | 0.5  |

#### (2) 転職希望者の割合は連続して低下

有業者について昭和62年以降の就業希望意識別の割合の推移をみると、「継続就業希望者」の割合は低下傾向となっていたが、平成24年は上昇している。

一方、「転職希望者」の割合は、前回から1.5ポイント低下して9.7%となっている。平成14年調査以降、連続して低下している。（図11）

図11 就業希望意識別有業者の割合の推移－昭和62年～平成24年



## 2 無業者の就業希望意識

### (1) 就業希望者は無業者の21.8%

無業者について、就業希望意識、求職活動の有無をみると、「就業希望者」が27万9千人(21.8%)、「うち求職者」が11万2千人(8.8%)、「非就業希望者」が100万1千人(78.1%)となっている。

男女別にみると、「就業希望者」の割合は男性21.6%、女性21.9%と、女性が上回っているのに対し、「うち求職者」の割合は男性10.4%、女性7.8%と男性の方が高くなっている。

(表10)

表10 男女、就業希望意識、求職活動の有無別無業者数及び割合ー平成19年、24年  
(人、%、ポイント)

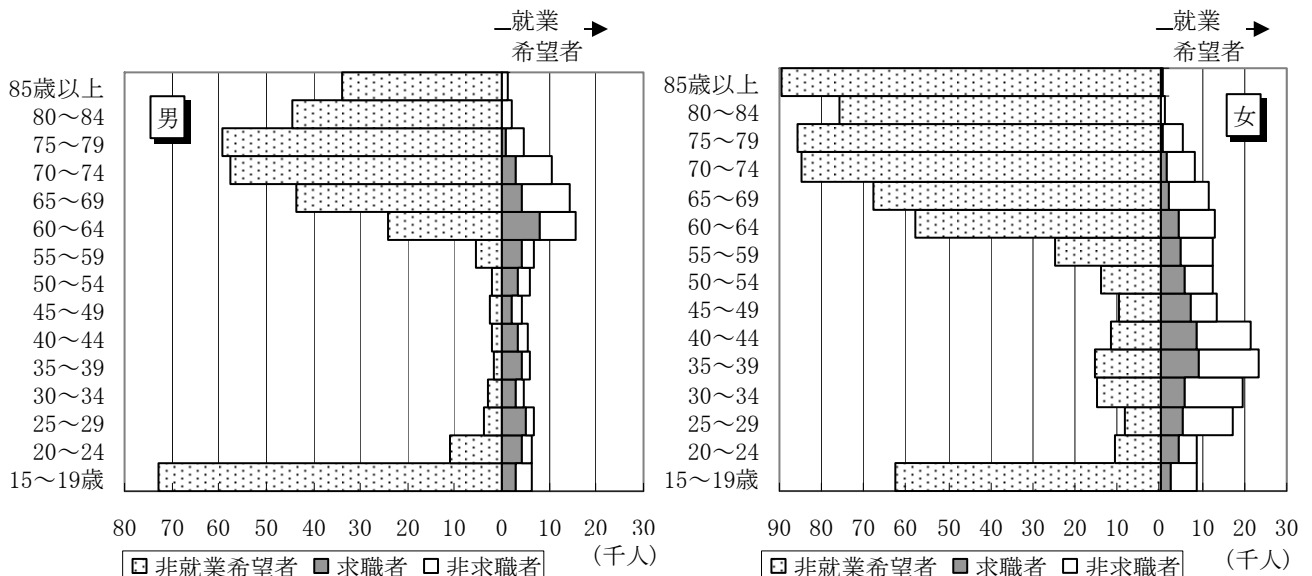
| 区 分    |        | 実 数       |           |        | 割 合   |       |      |
|--------|--------|-----------|-----------|--------|-------|-------|------|
|        |        | 平成24年     | 平成19年     | 増減     | 平成24年 | 平成19年 | 増減   |
| 総<br>数 | 無業者    | 1,281,000 | 1,190,900 | 90,100 | 100.0 | 100.0 | -    |
|        | 就業希望者  | 279,300   | 254,400   | 24,900 | 21.8  | 21.4  | 0.4  |
|        | うち求職者  | 112,100   | 113,600   | -1,500 | 8.8   | 9.5   | -0.7 |
|        | うち非求職者 | 166,600   | 140,700   | 25,900 | 13.0  | 11.8  | 1.2  |
|        | 非就業希望者 | 1,000,800 | 923,300   | 77,500 | 78.1  | 77.5  | 0.6  |
| 男      | 無業者    | 468,900   | 409,400   | 59,500 | 100.0 | 100.0 | -    |
|        | 就業希望者  | 101,200   | 86,400    | 14,800 | 21.6  | 21.1  | 0.5  |
|        | うち求職者  | 48,700    | 45,900    | 2,800  | 10.4  | 11.2  | -0.8 |
|        | うち非求職者 | 52,100    | 40,500    | 11,600 | 11.1  | 9.9   | 1.2  |
|        | 非就業希望者 | 367,500   | 319,800   | 47,700 | 78.4  | 78.1  | 0.3  |
| 女      | 無業者    | 812,100   | 781,500   | 30,600 | 100.0 | 100.0 | -    |
|        | 就業希望者  | 178,100   | 168,000   | 10,100 | 21.9  | 21.5  | 0.4  |
|        | うち求職者  | 63,300    | 67,700    | -4,400 | 7.8   | 8.7   | -0.9 |
|        | うち非求職者 | 114,500   | 100,100   | 14,400 | 14.1  | 12.8  | 1.3  |
|        | 非就業希望者 | 633,300   | 603,500   | 29,800 | 78.0  | 77.2  | 0.8  |

### (2) 女性求職者は35～39歳が最も多い

無業者の就業希望意識を男女、年齢階級別にみると、男性は60歳から64歳、女性は35歳から39歳でそれぞれ就業希望者が最も多くなっている。

(図12)

図12 男女、年齢階級、就業希望意識、求職活動の有無別無業者数ー平成24年



## II 県内経済圏の就業構造

### 第1 就業状態

#### 1 有業率

##### (1) 「県内経済圏」別の有業率は「志太榛原・中東遠」が最も高い

「県内経済圏」別の有業率（静岡県 60.3%）についてみると、「志太榛原・中東遠」が 62.7%と最も高く、次いで「東部」（61.3%）、「西部」（60.3%）などとなっている。

男女別にみると、男性（静岡県 70.3%）は、「東部」が 72.1%と最も高く、次いで「志太榛原・中東遠」（71.8%）、「西部」（70.6%）などとなっている。

女性（静岡県 50.8%）は、「志太榛原・中東遠」が 53.9%と最も高く、次いで「東部」（50.8%）、「西部」（50.3%）、などとなっている。（表 11）

表 11 「県内経済圏」別の有業率－平成 24 年 (%)

| 区分（経済圏）  | 総数   | 男    | 女    |
|----------|------|------|------|
| 静岡県（全体）  | 60.3 | 70.3 | 50.8 |
| 伊豆       | 56.5 | 66.2 | 48.1 |
| 東部       | 61.3 | 72.1 | 50.8 |
| 中部       | 57.3 | 66.8 | 48.6 |
| 志太榛原・中東遠 | 62.7 | 71.8 | 53.9 |
| 西部       | 60.3 | 70.6 | 50.3 |

##### (2) 生産年齢人口の有業率も「志太榛原・中東遠」が高い

15歳から64歳（生産年齢人口）の有業率（静岡県 74.9%）についてみると、「志太榛原・中東遠」が 76.7%と最も高く、次いで「東部」（75.6%）、「西部」（74.5%）などとなっている。

男女別にみると、男性（静岡県 83.2%）は、「東部」が 84.9%と最も高く、次いで「志太榛原・中東遠」（83.9%）、「西部」（83.5%）などとなっている。

女性（静岡県 66.2%）は、「志太榛原・中東遠」が 69.2%と最も高く、次いで「伊豆」（66.9%）、「東部」（65.8%）などとなっている。（表 12）

表 12 「県内経済圏」別の生産年齢人口有業率－平成 24 年 (%)

| 区分（経済圏）  | 総数   | 男    | 女    |
|----------|------|------|------|
| 静岡県（全体）  | 74.9 | 83.2 | 66.2 |
| 伊豆       | 74.2 | 81.7 | 66.9 |
| 東部       | 75.6 | 84.9 | 65.8 |
| 中部       | 72.1 | 80.0 | 64.0 |
| 志太榛原・中東遠 | 76.7 | 83.9 | 69.2 |
| 西部       | 74.5 | 83.5 | 65.1 |

#### 2 有業者の産業別割合

有業者について、産業別の割合をみると、第一次産業（静岡県 4.7%）は、「伊豆」が 7.1%と最も高く、次いで「志太榛原・中東遠」（6.3%）、「西部」（4.3%）などとなっている。

第二次産業（静岡県 32.9%）は、「志太榛原・中東遠」が 36.5%と最も高く、次いで「西部」（33.9%）、「東部」（33.6%）などとなっている。

第三次産業（静岡県 62.4%）は、「伊豆」が 70.4%と最も高く、次いで「中部」（68.1%）、「東部」（61.5%）などとなっている。（表 13）

表 13 「県内経済圏」別の産業別有業率—平成 24 年  
(%)

| 区分（経済圏）  | 第一次産業 | 第二次産業 | 第三次産業 |
|----------|-------|-------|-------|
| 静岡県（全体）  | 4.7   | 32.9  | 62.4  |
| 伊豆       | 7.1   | 20.5  | 70.4  |
| 東部       | 3.3   | 33.6  | 61.5  |
| 中部       | 3.2   | 25.8  | 68.1  |
| 志太榛原・中東遠 | 6.3   | 36.5  | 55.3  |
| 西部       | 4.3   | 33.9  | 57.9  |

### 3 従業上の地位別・雇用形態別割合

有業者のうち雇用者比率（雇用者総数の有業者総数に占める割合、静岡県 88.1%）をみると、「西部」が 90.1%と最も高く、「伊豆」が 78.4%で最も低くなっている。

また、「雇用者（役員を除く）」について雇用形態別の割合をみると、「正規の職員・従業員」（静岡県 62.4%）は「東部」が 63.7%と最も高く、次いで、「中部」（62.8%）、「西部」（62.2%）などとなっている。（表 14）

表 14 「県内経済圏」別の雇用者比率等—平成 24 年

(%)

| 区分（経済圏）  | 雇用者比率 |          | 正規の職員・従業員の雇用者（役員を除く）に占める割合 |       | 非正規の職員・従業員の雇用者（役員を除く）に占める割合 |       |
|----------|-------|----------|----------------------------|-------|-----------------------------|-------|
|          |       | うち若年者（*） |                            | うち若年者 |                             | うち若年者 |
| 静岡県（全体）  | 88.1  | 97.5     | 62.4                       | 68.9  | 37.6                        | 31.2  |
| 伊豆       | 78.4  | 97.7     | 60.9                       | 66.3  | 39.1                        | 33.7  |
| 東部       | 89.9  | 97.9     | 63.7                       | 69.6  | 36.3                        | 30.4  |
| 中部       | 87.4  | 97.1     | 62.8                       | 67.1  | 37.1                        | 32.9  |
| 志太榛原・中東遠 | 87.5  | 97.4     | 61.2                       | 71.7  | 38.8                        | 28.4  |
| 西部       | 90.1  | 97.7     | 62.2                       | 66.6  | 37.8                        | 33.4  |

\*「若年者」とは 15～34 歳の者をいう

## 第 2 過去 1 年間の転職就業者

有業者について、過去 1 年間の転職就業者の割合（転職者比率、静岡県 4.9%）をみると、「西部」が 5.3%で最も高く、「伊豆」が 2.8%で最も低くなっている。

男女別にみると、男性は「西部」が 4.7%で最も高く、次いで「東部」（4.6%）、「志太榛原・中東遠」（4.2%）などとなっている。

女性は「中部」が 6.3%で最も高く、次いで「志太榛原・中東遠」（6.1%）、「西部」（6.0%）などとなっている。（表 15）

表 15 「県内経済圏」別の転職者比率－平成 24 年  
(%)

| 区分（経済圏）  | 総数  | 男   | 女   |
|----------|-----|-----|-----|
| 静岡県（全体）  | 4.9 | 4.2 | 5.7 |
| 伊豆       | 2.8 | 2.6 | 3.0 |
| 東部       | 4.9 | 4.6 | 5.3 |
| 中部       | 4.8 | 3.8 | 6.3 |
| 志太榛原・中東遠 | 5.0 | 4.2 | 6.1 |
| 西部       | 5.3 | 4.7 | 6.0 |

### 第 3 職業訓練・自己啓発の状況

15 歳以上人口について、職業訓練・自己啓発の状況を見ると、自発的に行った者の割合（静岡県 13.9%）は「中部」が 14.9%で最も高く、次いで「東部」（14.5%）、「西部」（13.8%）などとなっている。

若年者（静岡県 19.4%）についてみると、「西部」が 20.9%で最も高く、次いで「中部」（20.3%）、「東部」（19.2%）などとなっている。（表 16）

表 16 「県内経済圏」別の職業訓練・自己啓発を自発的に行った者の割合－平成 24 年  
(%)

| 区分（経済圏）  | 総数   | 若年者  |
|----------|------|------|
| 静岡県（全体）  | 13.9 | 19.4 |
| 伊豆       | 12.0 | 18.8 |
| 東部       | 14.5 | 19.2 |
| 中部       | 14.9 | 20.3 |
| 志太榛原・中東遠 | 13.0 | 17.5 |
| 西部       | 13.8 | 20.9 |

### 第 4 夫婦共働き世帯の就業の状況

「夫婦のみの世帯」、「夫婦と親から成る世帯」、「夫婦と子供から成る世帯」、及び「夫婦、子供と親から成る世帯」のうち、夫婦共に有業の世帯（夫婦共働き世帯）の割合（静岡県 50.1%）をみると、「志太榛原・中東遠」が 54.7%と最も高く、次いで「東部」（49.8%）、「西部」（48.9%）などとなっている。（表 17）

表 17 「県内経済圏」別の夫婦共働き世帯数及び割合－平成 24 年  
(人、%)

| 区分（経済圏）  | 総数      | 世帯数     | 割合   |
|----------|---------|---------|------|
| 静岡県（全体）  | 847,200 | 424,700 | 50.1 |
| 伊豆       | 60,800  | 29,300  | 48.2 |
| 東部       | 227,600 | 113,300 | 49.8 |
| 中部       | 160,000 | 75,100  | 46.9 |
| 志太榛原・中東遠 | 208,200 | 113,900 | 54.7 |
| 西部       | 190,600 | 93,200  | 48.9 |